

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2094000045		
法人名	社会福祉法人七つの鐘		
事業所名	なでしこ		
所在地	安曇野市三郷温 2 5 1 7		
自己評価作成日	平成23年1月7日	評価結果市町村受理日	平成23年5月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2094000045&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2094000045&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成23年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは周囲に民家が立ち並び、田畑に囲まれた場所にあり、立地条件に恵まれている。建物は古民家を改修したもので古い物の良さを充分活用し、落ち着いた雰囲気、生活できている。利用者は7名定員で、家庭的な環境のもとで、居場所作り、関係作りが行われている。また普通に生活する中で、持てる力を発揮できるよう、自立支援を目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームなでしこは、福祉、保険、医療の連携で安心な生活を目指す社会福祉法人「7つの鐘」を母体に、平成20年に設立された。登録有形文化財でもある築200年の古民家を改修し、民芸調の癒しの空間を活かしながら安全に暮らせるような環境に整えられている。利用者と職員は、支援する側される側といった一方的な関係ではなく、「共に生活する」関係を大切にし、料理、買い物、洗濯など利用者に合わせて流れて協働しながら和やかに生活している様子がうかがえた。また、利用者と家族の絆を大切に、利用者家族が意見を出しやすいよう、職員が席を外しての家族会や第三者委員との話し合いの場を設けるなど家族との信頼関係を築かれてきた。地域住民参加による防災訓練や、利用者の重度化に伴い事業所のできる支援について検討されるなど、利用者と家族が安心して暮らせるようチームで取り組まれている様子がうかがえた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目		取り組みの成果	
		項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
			該当するものに印		該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域社会の中で、その人らしく暮らすことを支える」内容の理念を掲げて、地域内で交流を持つことを実践している。</p>	<p>地域密着型サービスとしての役割を示した事業所独自の理念を、開設時に職員全員で作上げた。「ありのままに」、「一緒にゆっくり、楽しく」という言葉は、ケアサービスを提供する上での根本的な考えとなっている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に参加したり、定期的に交流会を地区の子供会や小学校と行っている。</p>	<p>「暮らし」が事業所の中だけで完結しないよう、日常的な地域との相互関係を目指して取り組まれてきた。地区のお祭りへの参加やボランティアや実習生の受け入れを始め、ホームの行事に地域の方をお誘いしたり、地域の方からの野菜のおすそ分けなど、日常的な交流が行われている旨をうかがった。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>広報誌を地域に配布し理解を求めているが、充分には行えていない。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に会議を開催しホームの実情を理解していただき、活発に出された意見で学ぶことが多く、協力体制を求めることが出来ている。</p>	<p>運営推進会議には、利用者、家族、地区長、市担当者等が参加し、2ヶ月に1回開催されている。会議で出された意見や情報は、その後のケアに反映されるなど、サービスの質の向上に活かされている。</p>	<p>運営推進会議は、地域や行政の理解と支援を得るための重要な会議である。検討事項についての話し合いや現状報告のほか、避難訓練や昼食会、行事等に併せて開催するなど、利用者の状況やケアの実状を知っていただき理解を得られるような取り組みに期待する。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に出席していただき、ホームの取り組み等報告ができています。市町村の立場から意見も聞かせていただいている。</p>	<p>市の担当者は、運営推進会議に出席し、相談事項に応じて対応されている。管理者は、市との連携の重要性は理解されているが、多忙で異動もある担当者との関わりについては、模索中である。</p>	

外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、玄関の施錠は行っているが他身体拘束は行っていない。身体拘束についての理解も出来ている。	勉強会や研修を行ない、すべての職員は身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組みれていた。利用者が外出しそうな様子を察したら一緒についていくなど、職員の見守りにより安全面に配慮した鍵をかけない自由な暮らしが支えられていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員ミーティングで報告し共有を図っている。事業所では虐待行為は見られない。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員ミーティングで報告し共有を図っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた雰囲気の中で十分な時間をとり、説明し疑問に答えている。契約後も意見や質問を受ける体制を作り、不安のないように配慮している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方々と直接話ができる場を設けている。職員にも意見をいただきやすい関係作りを行い、実際にいただいた意見は反映できている。	家族会を立ち上げ、職員が席をはずしての第三者委員との話し合いの場を設けるなど、家族の意見や要望を表出できる機会作りが行なわれている。行事の写真を載せた新聞を送付したり、電話で様子を知らせるなど、利用者の日頃の暮らしぶりを知っていただくための取り組みにより、家族との信頼関係が築かれている様子が見えた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月1回の全体ミーティングでは活発な話し合いがなされ、運営に活かされている。	事業所の運営やケアについての提案等は、ミーティングやカンファレンスで話し合われ、職員の意見が活かされるよう取り組まれている。また年3回個別面談を行い、自己評価の振り返りや悩みや相談事の解決に向けた話し合いが行なわれている。	

外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行っている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は実施され、参加機会も多く与えられている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流の機会は多くあり、いい刺激になっている。法人外の同業者との交流の機会を増やしたい。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションを多くとり、話をする中で不安をなくし、安心していただくように努力している。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が納得し、安心していただけるよう必要に応じて、何回か話し合いの機会を作っている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で、何を必要としているかを知り、対応している。		



外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を利用者主体とし、相談しながら活動している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を定期的に送付し、共有する中で協力し、ともに支えることを常にお願している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出においてなじみの場所や自宅訪問を行ったり、友人・知人が訪問しやすい環境を作っている。	職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係を把握し、利用者の友人が訪ねやすい環境を作り、年賀状や電話などつながりが継続できるような支援がされていた。外食、美容室など個人の外出や、初詣は行きたい神社に付き添うなど、なじみの場所ともつながりながら暮らせるよう取り組まれていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係作りは出来つつあり励みになっている。孤立気味なときは職員が入り、安心できるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡による解除のみである。関係を保てるように努めていきたい。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、本人の意向等把握している。また普段の生活の様子や会話から、本人の希望、思いを汲み取りケアにつなげている。	利用者が言葉にしづらい思いや意向は、日々の言動や表情から汲み取るよう、一人ひとりその時々の方の気持ちの把握に努めたり、家族から情報を得ながら本人本位に検討されている様子うかがえた。	

外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書式を使い生活歴等の把握を行い、家族からも様々な情報を得られるよう関係を作っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書式を記入することで、把握することに努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当者・ケアマネ中心に作成し、職員会議で皆の意見を求め反映している。	利用者の担当者や家族からの意見をもとに計画作成担当者が立案、職員会議で検討の上作り上げている。3ヶ月ごとの見直しのほか、カンファレンスを行い、刻々とした変化にも対応した計画となるよう取り組まれていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、日々の様子やプランの実施状況について書かれ、職員間の情報の共有、ケアの実践につなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の記録やミーティングにおいてニーズの変化の把握を行い、対策やサービスの変更も柔軟に行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内だけの生活にならないように、スーパー、美容院など地域資源の活用を行っている。また散歩を通じ、近隣の方とふれあいをもてるようにしている。		

外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族、本人の希望で行っている。医院とも連絡が取れる体制が取れていて、相談でき安心できている。</p>	<p>月に1回事業所の協力医による訪問診療が行なわれている。また、家族や利用者の状況に応じて通院支援を行い、家族への報告がされている。今後は、訪問看護の導入なども検討される旨をうかがった。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホームには看護師はいないが、法人の看護師に相談できている。協力医院の看護師とも連携できる体制が出来ている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院のケースが生じた場合は、職員が病院へ行き、看護師や医師から情報を得ている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化について、家族の意向を聞いているが、マニュアル化していない。</p>	<p>利用者と家族の意向を汲み取りながら、事業所が対応しうる最大限の支援について検討しながら取り組まれてきた。今後は医療連携体制を整備しながら、柔軟に対応されていく旨をうかがった。</p>	<p>終末期支援のあり方は、利用者と家族の不安のひとつである。事業所の力量を把握し、現状でできる支援方法をチームで話し合いホームの指針を打ち出すことは重要である。更に、他施設での取り組みや社会的なニーズを把握し、医療連携体制の構築や職員研修など、職員の意欲と理解を得られるような取り組みに期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命救急講習には全員参加できている。繰り返し訓練を行っていくことで、身に付けていきたい。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の訓練に参加したり、事業所の訓練には区長さんにも参加してもらい、協力体制が必要なことは確認できている。事業所の訓練も定期的に行っている。</p>	<p>消防署、地域住民の協力のもと、夜間想定訓練も含め、年3回行なっている。また、職員は地域での炊き出し訓練などにも参加し、地域との協力体制も築かれていた。</p>	<p>避難訓練は時間帯や災害の様々な想定で繰り返し行なうことが必要である。利用者の高齢化と重度化が予測され、職員だけの誘導には限界があると思われる。運営推進会議などを通じて消防団や地域住民に協力を呼びかけ、具体的な支援体制を整備されることを望む。</p>

外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は行っているつもりだが、時々慣れ親しみから、言葉使いが乱れることがあるので気をつけたい。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則であり、研修や勉強会を通して職員は認識してケアをされている。馴れ合いの中で利用者の誇りを傷つけないよう、利用者の心情を察し、日常的に確認しながら言葉掛けや対応をされる事業所全体の取り組みが確認できた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺うことを多く持つことに心がけているが、言葉に表せない方については誘導してしまうことがある。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等はなく、利用者のペースで柔軟に生活していただけるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、スカーフ、外出着等その人らしく楽しんでいただけるように支援できている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材選び、調理と一連の作業を通して一緒にいき、楽しんでいただいている。	利用者の希望を採り入れ、旬の食材を使い、調理から盛り付け、配膳など一連の作業が利用者と共に進められていた。おはぎなど、季節の行事食作りも利用者の力が発揮される場である。職員と利用者が同じテーブルを囲み、会話もはずみ明るく和やかな食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の把握は出来ており、体調管理につながっている。		



外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアについては、必要に応じて介助、声がけで行えている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンは個々の把握ができており、トイレ使用で自立できるように支援できている。有効なパット使用で本人の気持ちの負担を軽減し、清潔保持も出来ている。</p>	<p>トイレでの排泄や、オムツをしないですむ暮らしの重要性を職員は認識し、利用者の排泄パターンを把握して支援されていた。誘導や見守りの際、他の利用者にわからないようにさりげない声掛けをするなど、本人の自尊心に配慮した介助が行なわれている様子をうかがった。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>起床時の水、食事内容のバランス、毎日の体操で予防に取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>曜日はおおよそ決めてあるが、本人の希望により変更できる状態である。入浴時間は体調を見ながら本人の希望に沿っている。</p>	<p>入浴は本人の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣、体調に合わせ、入浴や清拭、足浴など柔軟に対応されている旨をうかがった。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間は決めず、寝たいときに寝ていただいている。休みたいときは寝ていただいているが、メリハリのある生活が送れるように配慮している。寝具の清潔にも考慮している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬簿により個々の服薬について理解できている。投薬については安全が図れる手順が考えられている。</p>		

外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに役割を持っていただき、生きがいにつながる様に支援している。本人の希望、生活歴、家族の情報などから楽しみや満足感が得られるプランを立て実行している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温泉、バスツアー、墓参り、喫茶店、自宅等本人の希望に沿った支援を行い、楽しんでいただいている。	外出は利用者がその人らしく暮らし続けるために重要であることを職員は認識し、天気の良い日には利用者の希望とペースにあわせてホーム周辺を散歩するように努められている。また、ドライブや外食、買い物等、季節や地域の行事等、本人が生き生きと過ごせるように支援されていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お金を持ち、買い物できるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は希望により行えている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔であるように努め、季節の花や、飾り物を置き、生活感を感じ、居心地のいい空間を作る努力をしている。	築200年の古民家の良さを残しながら改修したホームは、建物全体が落ち着き、癒される空間でもある。利用者の生けた生花が飾られ、「ありのままに」と利用者による書が掲げられたホールでは、ソファにゆったりとくつろがれたり、歌を歌ったり、思い思いに過ごされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は一人になるスペースはないが、思い思いに過ごすことは出来、利用者同士で楽しめる場所は作られている。		

外部評価結果(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた筆筒や写真、飾り物など置かれ、家族と本人で相談し、居心地よく作られている。	居室はプライバシーを保てる個室であり、タンスや写真、花など、本人がその人らしく過ごせるよう整えられていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を考え、使いやすいように配置等考えてある。安全については、毎日書式により確認されている。		